

自分だけの薬箱

A2201103 厚海健太

研究の概要(背景)

現代社会において薬は日常生活になくはならない存在となった。病気の治療はもちろんのこと、健康維持のためにサプリメントを服用する人もいる。薬は老若男女、健康か否かを問わず我々の生活に欠かせないものといえる。

それに伴い薬を保管・携帯するための道具が必要となる。薬剤は非常にデリケートで紫外線や空気中の僅かな細菌、ホコリ、湿気などに晒されると薬の成分が変わってしまうことがある。

また、人前で薬を服用することに抵抗を感じる人もいる。私自身昨年に体調を崩して現在でも投薬治療が続けているが、外食の際には人目を気にして飲んでいる。

私は今まで学んできた漆を用いて、漆の持つ優れた抗菌性と自然本来の柔らかな触感に着目し、機能的且つ服用への抵抗を和らげるデザインのピルケースを提案する。

研究のねらい

当初私が進めていた計画は漆を用いたユニバーサル・デザインだった。少子高齢化に伴い生活を支えるためだった補助用具が一つのファッションとして確立し、他人との差別化を図る人も多くなるだろうと考えていた。

私はその中でより身近な薬に注目した。漆の抗菌性は漆塗膜に付着した細菌をほぼ100%滅菌できるほど強力であり、耐水性にも優れている。

また漆の特性の一つである高級感は、持つ人のステイタスを高め長年愛用し続けるものになるだろう。他の製品と差別化ができ、ファッションの一形態として漆の独自性が働く。

いずれも安価なプラスチックや金属では作れず、漆で制作する必要性は十分に考えられる。

成果物(完成作品)

ピルケースは印籠のように分かれるようなデザインにした。また肌触りをよくするため丸みを強調したデザインにしている。三段に分かれるケースは朝昼晩と分けることができるようになっている。それぞれに会津木綿で作った巾着袋を用意し持ち運びやすいよう工夫した。

据え置き型の薬箱は中が七つに区切られて一週間分を小分けできるよう工夫した。





ピルケース 木地制作



木地完成

固め後

考察

実際に自分が投薬治療を受ける身になって、健康だった頃の視点とは違った見方で制作に取り組めた。薬を服用している人はどういうものを欲しているか、逆に服用していない人も欲しくなるようなデザインとはどういうものかなど、ユーザー側から考えるように心がけた。